

第三者の眼の重要性

トンネル崩落事故の教訓

二〇一二年十二月に発生した中央自動車道路・笹子トンネルの崩落事故はわれわれに老朽化したトンネルのリスクを再認識させました。何名もの犠牲者を出したこの事故の影響で、車でトンネルに入るたびに上を見上げ、不安になった経験を持つ方は、私を含め大勢いたと想像されます。

高度経済成長期の公共投資の一環として集中的に建設されたインフラの老朽化の問題はトンネルだけではなく。今後、インフラの急激な老朽化を起因とするさまざまな事故の多発が予測されます。国・地方自治体等も、一定の点検は実施していましたが、しかし、現在の危険な状況を危惧する日本土木学会の「維持管理に関する委員会」が浜松市と郡山市の一〇〇強の橋を点検しました。そ

の中で二の橋で重大な損傷を発見しました。自治体が検証を既に済ませた橋を独立の第三者の立場から実験的に再点検した結果、重大な事故に結びつくひび割れや腐食といった欠陥が、数多く発見されました。

この結果は日本全体の一部であり、サンプル調査（試査）にすぎません。浜松市と郡山市は、おそらくこの種の深刻なリスクに気付き、学会の調査に協力したのでしょうか、先進的な市と考えられます。その他の市町村の状況は、この結果よりも深刻である可能性が高いと予測されます。

この驚くべき結果は、当事者が調査をするに甘くなりがちで自分の都合のよい結果を導きがちになることを表しています。国も地方も年々財政事情が厳しくなる



JF全国監査機構
監査委員長
おのみまさゆき
近江正幸

という台所事情から、点検ではなるべくお金のかかる事象を発見したくない。何も見つけないことが褒められる風土が出来上がっていたのかもしれない。しかし、このような甘い点検では国民の安全と財産の確保はできません。

厳しい財政事情下では問題を見つけ、早めに補修をし、既存のインフラを大切に使用し続けるしか、道はありません。がん検診と同じ考え方です。監査活動における独立性維持の大切さに通じる、第三者の眼による調査・評価の重要性を示す事象として紹介させていただきます。

内部監査に関する書籍のご紹介

『中堅・中小組織の内部監査』

近江正幸・中里拓哉 著
発行：白桃書房
価格：3,200円（税別）

協同組合等の中小規模組織を対象とした内部統制、内部監査のあり方について解説。組合の内部監査の参考となる内容です。

